

記入日 2017年 1月 13日

## 1. 概要

実践団体名	名古屋市立中央高等学校(昼間定時制)		
連絡先	052-241-6538		
プランタイトル	セカンドステップ～防災教育の新たな芽～		
プランの対象者※1	5. 高校生 8. 教職員・保育士等	対象とする 災害種別※2	7. 災害全般

※1 別紙「記入上の留意点」の1. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※2 別紙「記入上の留意点」の2. 項目から1つ選択し、記入してください。

## 【プランの目的・ここがポイント!】

単位制である本校昼間定時制は無学年・無学級制を採っており、1つの授業に様々な学年の生徒が在籍しているため、災害時における生徒の安否確認は非常に困難である。また、生徒の約7割が不登校を経験し、発達障がい等様々な事情を抱える生徒や車いすを使用している生徒も在籍する中で、災害時にどのように対応していくかが学校としての大きな課題となっている。昨年度までに整備した災害時の避難誘導體制に工夫を加え、より多くの教員や生徒に浸透させていくことを目的として、学校全体で様々な取り組みを行うこととした。

## 【プランの概要】

- ・教員対象の避難訓練を【予告なし】で行う。
- ・総合的な学習の時間に防災教育を組み込むことで、防災担当の教員だけではなく、より多くの教員・生徒の意識の向上及び知識の定着を図る。
- ・昨年から行っている講演会や避難訓練、スポーツフェスティバルを利用した担架リレーや消火ホースリレーを通して、防災教育を身近なものにしていく。
- ・防災委員を生徒から募集し、防災すごろくや防災かるたを隣接する小学校の生徒を対象に実践する。

## 【期待される効果・ここがおすすめ!】

- ・【予告なし】の避難訓練を行うことで、より多くの教員の主体的な判断力や行動力を養い、どのような状況で災害が発生しても適切な行動をとれる教員集団を育成する。
- ・自ら主体的に防災教育を行う授業を設定することで、個々の教員の指導力向上と、それを礎とした継続的な防災教育を推進していく。
- ・今まで、受け身であった生徒の防災意識のさらなる向上を促し、「助けられる側」から「助ける側への変革を促す。
- ・2年連続でのチャレンジプラン参加により、防災に関する行事が、本校独自の伝統行事になることを期待している。

## 2. プランの年間活動記録 (2016 年)

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4 月	プラン全般に関する各担当者との打ち合わせ	必要物品の集約	
5 月	訓練方法の検討		
6 月		事後アンケートの実施 及び課題の整理	予告なしの避難訓練 (教職員対象)
7 月		講師との事前打ち合わせ	中央セミナー (福和伸夫氏 名古屋大学大学院環境学研究科教授 ) 総合的な学習の時間
8 月	訓練方法の検討	講師との事前打ち合わせ	
9 月	中央祭の企画立案 避難訓練の企画立案	講師との事前打ち合わせ	防災講話 (吉村隆氏 吉村減災支援センター長) 地震を想定した避難訓練 防災関連 PH (総合的な学習の時間)
10 月	スポーツフェスティバルの企画立案	事後アンケートの実施 と課題の整理	中央祭
11 月	講師依頼		<ul style="list-style-type: none"> <li>火災を想定した避難訓練</li> <li>スポーツフェスティバル (担架リレー・消火ホースリレー)</li> </ul>
12 月			<ul style="list-style-type: none"> <li>救急救命講座 (教職員対象)</li> </ul>
1 月			<ul style="list-style-type: none"> <li>保健相談部講話</li> </ul>
2 月			
3 月			

## 3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号：  1 】※3

タイトル	予告なしの避難訓練
実施月日（曜日）	6月6日（月）
実施場所	本校
担当者または講師	林 直樹（教諭）/藤田 圭以子（教諭）
所要時間または 「コマ数×単位時間」	14：00～15：00
プログラムの カテゴリ、形式※4	16 避難・防災訓練
活動目的※5	4 災害を想定した訓練
達成目標	他人任せではなく、個々の教員が主体的に避難誘導をできるようにする。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 訓練の日時を知らせずに実施</li> <li>2. マニュアル上の指令系統となる担当者はすべて不在を設定</li> <li>3. 各フロアに設定した被災者人数を知らせず実施</li> <li>4. 1～3の状況で、緊急地震速報（CD）を鳴らし訓練を開始。</li> <li>5. 各教員はアクションカードをもとに本部の設置から被災者の避難誘導まで行う訓練</li> <li>6. 事後アンケートの回収</li> </ol>
準備、使用したもの ・ 人材 ・ 道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1階1人、2階2人、3階1人（動けない大柄の教員）、4階2人、5階1人（車いす使用の大柄な教員）</li> <li>・ アクションカード6枚、簡易担架、車いす、緊急地震速報（CD）</li> </ul>
参加人数	50名
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	<p>【成果】 単位制による避難訓練の重要性を理解する教員が増え、整備されている避難誘導體制の再確認ができた。</p> <p>【課題】 日時を知らせないため、訓練に一部の教員が参加できなかった。今後、より多くの教員が参加できる体制を整えていきたい。</p>
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：  2 】※3

タイトル	「過去の地震災害に学び、今後の大規模地震に備える」
実施月日（曜日）	6月22日(水)
実施場所	講堂
担当者または講師	福和 伸夫氏（名古屋大学大学院環境学研究科教授）
所要時間または「コマ数×単位時間」	10：50～12：40
プログラムのカテゴリ、形式※4	3 講演会・シンポジウム
活動目的※5	9 災害対応能力の育成
達成目標	南海トラフ地震発生時の速やかな対応
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	・全校生徒向けの講演
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・パソコン/レーザーポインター/プロジェクター
参加人数	全校生徒・教職員
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 非常食の備蓄や家具の固定といった防災対策の必要性をリアルに感じることができた。 【課題】 学んだことや感じたことを、実際に実践できるかどうか課題となるであろう。
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

**【実践プログラム番号：  3 】** ※3

タイトル	サバイバル実習教室
実施月日（曜日）	7月16日(土)
実施場所	名古屋市港防災センター
担当者または講師	港防災センター職員
所要時間または「コマ数×単位時間」	9:30～12:00、13:00～15:30
プログラムのカテゴリ、形式※4	4 総合的な学習の時間 13 体験学習
活動目的※5	5 災害を類似体験
達成目標	見学・実習を通して、災害時に何をすべきかを考える。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	①アルミ缶と牛乳パックでご飯を炊く。 ②煙避難体験をする。 ③地震体験室で過去の巨大地震を体感する。 ④施設内を自由に見学する。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・筆記用具・アルミ缶(350ml)・牛乳パック(1L)・米
参加人数	AM15名、PM8名
経費の総額・内訳概要	お米代等
成果と課題	【成果】 身近にあるものを利用した炊飯方法や、地震体験を通しての適切な初期行動を学んだ。 【課題】 学んだ知識をより深めるための自発的な行動を今後より促していきたい。
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：  4 】※3

タイトル	「自分の命は自分で守る」～学校でも自宅でも～
実施月日（曜日）	9月1日（木）
実施場所	体育館
担当者または講師	吉村 隆氏（吉村減災支援センター長）
所要時間または「コマ数×単位時間」	10：00～11：00
プログラムのカテゴリ、形式※4	3 講演会・学習会・ワークショップ
活動目的※5	9 災害対応能力の育成
達成目標	災害時の身の守り方の定着
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	①地震や火災発生時、「まず、自分が死なない」ために知っておかなければならない知識及び行動の説明 ②シェイクアウト訓練
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・マイク
参加人数	全校生徒・教職員
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 地震発生時と火災発生時では、避難場所や行動が異なることを学んだ。特に、地震発生時の縦の移動の禁止、頭を守る方法等は、大変役に立つ知識の一つとなった。 【課題】 災害が発生した時に、得た知識を実際に役に立てられるかが課題として残る。
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 5】※3

タイトル	「動けばつながるーいつも傍にいるよー」
実施月日（曜日）	9月21日(水)
実施場所	体育館
担当者または講師	矢野 きよ実氏（パーソナリティー、書道家）
所要時間または「コマ数×単位時間」	11：05～12：40
プログラムのカテゴリ、形式※4	2 講演会・学習会・ワークショップ
活動目的※5	5 災害の類似体験
達成目標	東日本大震災後、被災地の現状を理解する。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	①講師のボランティア活動を通して、現在の状況を報告。 ②力強く生きている子供たちの現状を、被災地の小学生の「書」や写真パネルを通して、理解していく。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・被災地の小学生が書いた「書」 ・パソコン/プロジェクター/マイク
参加人数	全校生徒及び教職員
経費の総額・内訳概要	145000円（ご配慮により大幅に減額していただいた）
成果と課題	【成果】 現地の小学生が書いた「書」を通じ、力強く生きている姿を感じることができた。 【課題】 「Live書」を時間の関係で、行うことができなかったこと。
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：  6 】※3

タイトル	防災実験ぶるる 90 分コース
実施月日（曜日）	9 月 28 日（水）
実施場所	理科講義室
担当者または講師	森下 香織(教諭)、氏原 和彦(教諭)
所要時間または「コマ数×単位時間」	11：05～12：40
プログラムのカテゴリ、形式※4	4 総合的な学習の時間
活動目的※5	1 遊び・楽しみながらの防災
達成目標	建物の構造による地震の揺れの違いの理解
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	①画用紙を利用し、建物を作る。 ②作った建物を揺らして、構造にとって揺れが違うことを理解する。 ③揺らし方によっても、建物の揺れが異なることを理解する。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・ケント紙/両面テープ/糊/ハサミ
参加人数	1 年次 40 名
経費の総額・内訳概要	ケント紙 1000 円、両面テープ 1000 円
成果と課題	【成果】 建物の構造での揺れの違いだけでなく、地震の揺れによっても、建物の揺れが異なることが理解できた。 【課題】 生徒によって、建物を完成させる速さが異なり、暇を持て余している生徒が見られた。
成果物	防災実験ぶるるの完成品

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。



## 【実践プログラム番号： 7 】※3

タイトル	防災実験ぶるる+ロープワーク
実施月日（曜日）	9月28日（水）
実施場所	理科講義室
担当者または講師	林 直樹(教諭)、石原 章彦(教諭)、古川 慎一郎(教諭)
所要時間または「コマ数×単位時間」	11:05～11:50+11:55～12:40
プログラムのカテゴリ、形式※4	4 総合的な学習の時間
活動目的※5	1 遊び・楽しみながらの防災
達成目標	災害時に利用できる基本的なロープワークの習得
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	（前半） ② 画用紙を利用し、建物を作る。 ②作った建物を揺らして、構造によって揺れが違うことを理解する。 ③揺らし方によっても、建物の揺れが異なることを理解する。 （後半） 災害時に利用できるロープワーク（結び）を学ぶ
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・ケント紙/両面テープ/糊/ハサミ ・ロープ
参加人数	1年次 40名
経費の総額・内訳概要	ケント紙 600円、両面テープ 800円
成果と課題	【成果】 災害時に利用できるように基本的なロープワークを習得した。 【課題】 習得したロープワークを定着させるための復習する機会の設定
成果物	防災実験ぶるるの完成品

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：  8 】※3

タイトル	防災ゲーム HUG
実施月日（曜日）	9月28日（水）
実施場所	教室
担当者または講師	杉山 協子(教諭)、梅山 万梨子(教諭)
所要時間または「コマ数×単位時間」	11:05～12:40
プログラムのカテゴリ、形式※4	4 総合的な学習の時間
活動目的※5	1 遊び・楽しみながらの防災
達成目標	避難所で生活することになった際、どのような問題が起こるのかを知り、対処法を考える。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	①ゲームの説明 ②自己紹介（アイスブレイキング） ③ゲーム実施 ④感想、振り返り
準備、使用したもの・人材 ・道具、材料等	・避難所運営ゲームHUG 1セットおよびワークシート ・プロジェクタ/パソコン/スクリーン ・ふせん ・筆記用具
参加人数	1年次6名
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 ゲームの進行とともに、社会的により弱い立場の避難者のことを想像することができるようになっていった。 【課題】 避難所で発生した問題をしっかり考えさせるため、一部ルールを変更してゲームを行った。本来のねらいを修得させるには、1回きりの体験で終わるのではなく、本来のルールでできるようになるまでくり返し体験させるとよい。
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：  9 】※3

タイトル	防災ゲーム CROSSROAD
実施月日（曜日）	9月28日（水）
実施場所	教室
担当者または講師	安田 香（教諭）、石川 知穂（教諭）、川西 宏和（教諭）
所要時間または「コマ数×単位時間」	11：05～12：40
プログラムのカテゴリ、形式※4	4 総合的な学習の時間
活動目的※5	1 遊び・楽しみながらの防災
達成目標	災害対応を自らの問題として考え、さまざまな意見や価値観を参加者同士で共有する。また、価値観の違う相手との合意形成の方法を理解し、受容性を養う。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	①ゲームのルール説明（10分） ②ゲーム実施（50分） ③振り返り（30分）
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	教材（CROSSROAD）
参加人数	1年次 30名
経費の総額・内訳概要	防災ゲーム CROSSROAD 8200円
成果と課題	【成果】 防災対応策について自らの問題として考えることができた。また、価値観の違う仲間との合意形成の練習となった。 【課題】 実際の震災の話と関連付けながらより深い学びにつなげるために、振り返り時間に生徒自身が考えたり、調べたりする時間がもう少し必要であった。
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 10】※3

タイトル	防災かるた
実施月日（曜日）	9月28日（水）
実施場所	図書館、学習コーナー
担当者または講師	菅生 綾子（教諭）、鯉沼 寿子（教諭）、幅 美樹子（教諭）
所要時間または「コマ数×単位時間」	11：05～12：40
プログラムのカテゴリ、形式※4	4 総合的な学習の時間
活動目的※5	1 遊び・楽しみながらの防災
達成目標	生徒の防災への意識の向上を図り、生徒を取り巻く人にまでその意識を広げていくために、生徒自らどのような発信をするべきか考えさせる。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	①防災に関する標語・かるたの読み札の例を示す。 ②防災関連本・絵本を示す。 ③2～3人一組で、かるたの取り札（絵）、読み札（標語）を作成する。 ④1組完成するたびに、全体に示す
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・筆記用具 ・色鉛筆 ・色ペン・マジック ・防災に関する書籍 ・画用紙 ・マスキングテープ
参加人数	1年次 35名
経費の総額・内訳概要	画用紙 1000円、マスキングテープ 1400円
成果と課題	【成果】防災に関して考えるきっかけとなった。 【課題】時間内にすべてのかるたを完成させることができなかった。 （学校祭の企画の一部として続きの作成が行われた）
成果物	防災かるた

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 11】※3

タイトル	パッククッキング
実施月日（曜日）	9月28日（水）
実施場所	調理室
担当者または講師	防災士協会
所要時間または「コマ数×単位時間」	11：05～12：40
プログラムのカテゴリ、形式※4	4 総合的な学習の時間
活動目的※5	1 遊び・楽しみながらの防災
達成目標	簡単な方法で災害食を自分たちで作る。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カレーライスづくり ポリエチレン袋を使用しての炊飯、カレーの調理</li> <li>・市販のホットケーキミックスとポリエチレン袋で蒸しパン作り（調理の待ち時間） 防災士協会の方による熊本地震の様子についての講話</li> </ul>
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆記用具</li> <li>・手拭きタオル</li> <li>・各種調理器具（鍋、包丁、まな板）</li> <li>・食材 （米、カレールウ、野菜類、ホットケーキミックス、卵、牛乳）</li> </ul>
参加人数	1年次生徒 22名
経費の総額・内訳概要	材料費 4600円、講師謝金 15000
成果と課題	<p>【成果】 生徒が主体となり、楽しく有意義な実践ができた。</p> <p>【課題】 平常時での調理とは異なるため、想定外の事態が起きた際に臨機応変に対応しながら調理を続けられるようにしたい。</p>
成果物	カレーライス、蒸しパン（その場で試食）

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 12】※3

タイトル	「災害時に避難所で役に立つ技術を身に着けよう」
実施月日（曜日）	9月28日（水）
実施場所	体育館
担当者または講師	日本赤十字社
所要時間または「コマ数×単位時間」	11:05～12:40
プログラムのカテゴリ、形式※4	2 講習会・学習会・ワークショップ
活動目的※5	9 災害対応能力の育成
達成目標	避難所で役に立つスキルを身に着ける
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	①最初は日本赤十字社の方からの説明を聞く ②次にグループに分かれ、実践を行う。 ・ホットタオルの作り方 ・マッサージの方法、エコノミー症候群の予防法 ・毛布の利用方法
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・筆記用具 ・フェイスタオル2枚 ・レジ袋1枚
参加人数	2年次生徒全員、教職員
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】避難所で役に立つ技術を取得することができた。また自分たちが何かをしてもらう立場ではなく、他人に対して何かをしなければならない立場であるということを認識することができた。 【課題】避難所運営についても生徒に学ばせる機会を作りたい。
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 13】※3

タイトル	「熊本地震での活動を通して」
実施月日（曜日）	9月28日（水）
実施場所	格技場
担当者または講師	松永 鎌矢（NPO 法人 レスキューストックヤード事務局長）
所要時間または「コマ数×単位時間」	11：05～12：40
プログラムのカテゴリ、形式※4	2 講習会・学習会・ワークショップ
活動目的※5	8 防災意識を高める
達成目標	熊本地震の様子を知る。地震時の高校生の活動について学ぶ。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	講演 パワーポイント、ビデオを用いた支援活動の実際の紹介
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・筆記用具 ・パソコン/レーザーポインター/プロジェクター
参加人数	3・4年次生徒全員、教職員
経費の総額・内訳概要	講師謝金 20000 円
成果と課題	【成果】熊本の地震の様子を学ぶことができた。高校生が地震発生時に活躍している様子を聞き、自分自身が何をできるのかということを考えることができた。 【課題】支援活動について、主体的に考え、防災に関する主体的行動への意識を高めることが、今後の課題となる。
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 14】※3

タイトル	防災の部屋
実施月日（曜日）	10月20日(木)
実施場所	教室
担当者または講師	藤田 圭以子(教諭)
所要時間または「コマ数×単位時間」	9:30-12:00
プログラムのカテゴリ、形式※4	イベント・行事
活動目的※5	8 防災意識を高める
達成目標	防災委員のみでなく、全校生徒の防災意識を高める
実践方法・進め方 (箇条書きまたはフロー)	①防災委員が防災に関する展示を行う。(防災に役立つ技術、100円ショップで手に入る防災グッズなど) ②防災かるたを作成する。 ③防災ゲーム「なまずの学校」を行う。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆記用具</li> <li>・カラーペン</li> <li>・かるた台紙</li> <li>・防災に関する書籍</li> <li>・防災に関する展示物</li> <li>・防災ゲーム「なまずの学校」</li> </ul>
参加人数	全校生徒、新栄小学校の生徒、教職員
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	<p>【成果】 防災かるた、防災ゲーム「なまずの学校」を通じて、防災意識を高めることができた。</p> <p>【課題】 小学生に対して防災ゲームを行う際は、その学年に応じてアレンジすることが必要だと感じた。</p>
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。



【実践プログラム番号： 15】※3

タイトル	トライ愛知学—伊勢湾台風—
実施月日（曜日）	10月26日(水)、11月16日(水)
実施場所	教室
担当者または講師	加藤 美智男(教諭)
所要時間または「コマ数×単位時間」	11:05-12:40
プログラムのカテゴリ、形式※4	5 災害の類似体験
活動目的※5	8 防災意識を高める
達成目標	過去の歴史を理解し、現在に活かす。
実践方法・進め方 (箇条書き またはフロー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和34年に来襲した伊勢湾台風の実態を学習する。</li> <li>・なぜ、被害が拡大したのかを考察する。</li> <li>・その教訓を活かし、現在はどうなったかを学ぶ。</li> <li>・港北公園を訪れ、水位等を確認する。</li> </ul>
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材プリント</li> <li>・DVD「それぞれの伊勢湾台風」</li> </ul>
参加人数	生徒14名
経費の総額・内訳概要	DVD代 3800円
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伊勢湾台風後、気象予報やレーダーが充実したことの確認</li> <li>・貯水場の郊外への移転の学習</li> </ul> <p>【課題】</p> <p>事後指導の必要性</p>
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 16】※3

タイトル	地震避難訓練
実施月日（曜日）	11月1日(火)
実施場所	体育館
担当者または講師	林 直樹(教諭)、藤田 圭以子(教諭)
所要時間または「コマ数×単位時間」	12:00～12:40
プログラムのカテゴリ、形式※4	16 避難・防災訓練
活動目的※5	9 災害対応能力の育成
達成目標	災害時の対応と速やかな避難の遂行
実践方法・進め方 (箇条書き またはフロー)	①授業時間帯に、緊急地震速報を流し、訓練開始 ②地震が治まったことを確認後、各教室から体育館へ速やかに移動 ③避難場所（体育館）で、教科担当による点呼(1回目)。 ④プライド(クラス)別に整列を行い、スタッフ(担任)による点呼(2回目) ⑤本部は、点呼表を集約後、全員の安否の確認
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	① アクションカード（各フロアの被害状況の確認事項が明記されているもの） ②点呼表 ③時間帯別授業一覧 ④拡声器
参加人数	全校生徒及び教職員
経費の総額・内訳概要	蓄光テープ 23000 円
成果と課題	【成果】 本校独自の2段階点呼、アクションカードの利用方法が浸透してきた。 【課題】 広い体育館では、本部の場所がわかりにくく、紙等で明示する必要性を感じた。
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 17】※3

タイトル	スポーツフェスティバル（消火ホースリレー）
実施月日（曜日）	11月8日（火）
実施場所	テニスコート
担当者または講師	古川 慎一郎（教諭）
所要時間または「コマ数×単位時間」	9：30～12：30
プログラムのカテゴリ、形式※4	1 イベント・行事
活動目的※5	7 技術を身に着ける
達成目標	消火ホースの扱い方を学ぶ。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	①5人で1チーム作る ②審判の合図で、消火ホース（15m）4本を消火栓まで接続し、バルブを開けて放水する。 ③的（カラーコーン）に水が当たるまでのタイムを計測し、早かったチームの勝ちとする。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・消火ホース ・カラーコーン ・ストップウォッチ ・ホイッスル
参加人数	生徒約50名 教職員
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 消火栓の位置や放水までの手順を学び、リレー形式で行ったこともあり、実際の防災時に必要な連帯感が生まれた。  【課題】 大人数での取り組みであったため、積極的にかかわることのできなかつた生徒がいた。
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 18】※3

タイトル	スポーツフェスティバル（簡易担架リレー）
実施月日（曜日）	11月8日（火）
実施場所	テニスコート
担当者または講師	古川 慎一郎（教諭）
所要時間または「コマ数×単位時間」	9：30～12：30
プログラムのカテゴリ、形式※4	1 イベント・行事
活動目的※5	7 技術を身に着ける
達成目標	簡易担架の作り方、扱い方について学ぶ。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	①5人で1チーム作る ②審判の合図で木材と毛布で簡易担架を作り、人形を載せて2.5m間往復する。ゴールに戻ったら、簡易担架を解体し、次の走者に渡す。 ③先に3周し、ゴールしたチームを勝ちとする。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・木材 ・毛布 ・カラーコーン ・ストップウォッチ ・ホイッスル
参加人数	生徒約50名、教職員
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 木材と毛布といった身近なもので、簡易担架を作ることができたことがわかった。 【課題】 ゲーム形式であったため、簡易担架に乗せた人形を落としてしまうといった場面が見られた。
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 19】※3

タイトル	救急救命講習
実施月日（曜日）	11月25日（月）
実施場所	格技場
担当者または講師	「トライハートなごや」の職員
所要時間または「コマ数×単位時間」	15:00-16:30
プログラムのカテゴリ、形式※4	2 講習会・学習会・ワークショップ
活動目的※5	8 災害対応能力の育成
達成目標	救急救命の流れ、心肺蘇生法、AEDの使用法を学ぶ
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	①救急救命の流れの学習（DVD） ②心肺蘇生法の実践 ③AEDの実践
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・プロジェクター ・マイク ・AED ・人形
参加人数	40名(教職員)
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 救急救命の流れを理解し、心肺蘇生法およびAEDを実践することで、災害対応能力を身に着けることができた。 【課題】 より実践に近い形での訓練の必要性を感じた。
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 20】※3

タイトル	防災委員によるトワイライトスクール実習
実施月日（曜日）	12月9日(金)
実施場所	隣接する小学校の教室
担当者または講師	藤田 圭以子(教諭)
所要時間または「コマ数×単位時間」	15:30～16:30
プログラムのカテゴリ、形式※4	1 イベント・行事
活動目的※5	7 技術を身に着ける
達成目標	小学生との交流を通じて、お互いの防災意識を高める。
実践方法・進め方 (箇条書きまたはフロー)	①防災かるた（手作り）を行う。 ②防災すごろく（日本赤十字社より）を行う。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・防災かるた ・防災すごろく
参加人数	本校防災委員7名 本校教諭1名 トワイライトスクール児童約20名
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】小学生との交流を通じて、お互いの防災意識を高めあうことができた。本校生徒にとっては自己肯定感の高揚につながった。 【課題】今後継続的にトワイライトスクール実習を行っていくこと。
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 21】※3

タイトル	「応急処置に関する講習」
実施月日（曜日）	1月18日（水）
実施場所	体育館
担当者または講師	東 昇生（名古屋市消防局救命部救急救命研修所）
所要時間または「コマ数×単位時間」	11：05～12：40
プログラムのカテゴリ、形式※4	2 講習会・学習会・ワークショップ
活動目的※5	8 災害対応能力の育成
達成目標	災害時に必要な応急処置の手法等を学ぶ
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	①DVD教材を利用した応急手当の必要性に関する講義 ②心肺蘇生法を実習 ③三角巾を利用し、頭部のけがの被覆、骨折の固定方法の実践
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・プロジェクター ・マイク ・AED ・人形
参加人数	全校生徒及び教職員
経費の総額・内訳概要	救急セット 8400円
成果と課題	【成果】 未実施（1月13日現在）  【課題】
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。



#### 4. 苦勞した点・工夫した点

<p><b>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</b></p>	<p>昨年度からチャレンジプランに参加させていただいたため、立案する段階では、教職員には「試練」を、生徒には「楽しさ」をキャッチフレーズに、その実践と成果に期待しながら計画していくことができた。</p> <p>教職員対象の避難訓練では、「予告なし」で行うことを第一目的としたことに加えて、できるだけ困難な状況を作ろうと、あえて指令系統となるはずの教職員が一人もいない状況を設定した。また、昨年度は人形を救助する訓練であったが、今年度は、担架で運ばれる被災者役は大柄の教員を選び、被災者数も知らせないといったできるだけ実際に近い状況を作った。</p> <p>また、「防災かるた」を例にとると、総合的な学習の時間に作成し、作成したものを文化祭で実際に使用して遊んでみるといった一連の流れを作ることで、生徒がより楽しみながら防災教育を学べるように工夫した。</p>
<p><b>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</b></p>	<p>苦勞した点は、新たな取り組みを行うためには、新たな了解を得なければならなかったことである。スポーツフェスティバルでの「消火ホースリレー」では、実際に水をテニスコートにまくため、消火水槽やテニスコートの管理責任者の了解を取るのに苦勞し、「バッククッキング」では一部の生徒しか参加しないために、材料代の徴収方法に気を使った。</p> <p>しかし、これらの了解を得ることも、相手側に実践プログラムの「楽しさ」や「意義」を伝えることで、大抵のことを了解してもらえたことは感謝している。</p> <p>工夫した点は、避難訓練等の状況設定を訓練当日まで変更していき、教職員に多くの「試練」を与えるためにはどうすればよいか考え続けていったことである。そのため、私を含めた担当者2名以外、被災者役の教員すら状況を把握できない状況を設定出来たことは良かったと考える。</p> <p>また、全校生徒対象の避難訓練では、車いすで移動する生徒を実際に簡易担架等で避難させる事も検討したが、実際簡易担架に乗ってみた結果、不安定すぎて危険であると判断した。事前準備で実際に行ったみたことで、訓練による危険を回避できたことは良かったと考える。</p>
<p><b>実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点</b></p>	<p>事前準備の段階でしっかり計画や練習、試作等を行っていたので、計画による意図的な混乱以外の大きな混乱はなかった。しかし、全校生徒対象の避難訓練では、被災者役の教員を簡易担架で生徒に避難場所まで運んでもらう予定であったが、生徒は笑いながら素通りしてしまうので、なぜか私が救助した。避難訓練で、生徒が救助に当たれるまでの真剣さを求めるには、もう少し時間がかかるのかもしれない。</p> <p>工夫した点は、防災委員の予想以上の意識の高さを活躍の場につなげるための仕掛け作りである。当初の計画では、校内の防災関連の行事等に参加してもらう程度を予定していた。しかし、彼らの積極性を考え、隣接する小学校へ出向いて、トワイライトスクールの児童を対象とした「防災かるた」の授業を実践することまで手を伸ばすことができたのは、大きな成果であり、当初の計画に固執せず、フレキシブルに対応したことは工夫できた点の一つであると考えている。</p>



## 5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	新栄小学校	トワイライトスクールの授業実践
保護者・ PTAの組織	なし	
地域組織	なし	
国・地方公共団体・ 公共施設	名古屋市港防災センター 名古屋大学減災連携研究センター	施設見学・体験学習 講師派遣
企業・ 産業関連の組合等	なし	
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本赤十字社</li> <li>・NPO 法人レスキューストックヤード</li> <li>・吉村減災支援センター</li> <li>・トライハート名古屋</li> </ul>	講師紹介及び派遣
職業、職能団体・ 学術組織、学会等	なし	

## 6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p><b>成果として 得たこと</b></p>	<p>教職員に対しては、防災体制を確認してもらうことを目的とし、実際の災害時以上の負荷をかけた結果、大きな反響はあったが、「防災」をより真剣に取り組む雰囲気や芽生えてきたことは大きな成果である。また、協力的な教員に、計画の大枠を作った段階で、ある程度の裁量を与えることで、「消火ホースリレー」といった思いもしない取り組みが行えたことも大きな成果である。</p> <p>また、多くの防災教育を行った結果、どちらかというと内向的であった生徒達が率先して防災委員に立候補し、小学生と一緒に「防災かるた」や「防災すごろく」を行う姿は、当初全く予想もしていなかったことである。</p> <p>今回の取り組みによって、防災に関する知識はもちろんのこと、社会とのつながりが持てるようになってきた姿を見ると、今回の試みは「生徒の成長」という大きな成果となった。</p> <p>また、防災かるたの作成にかかわったある生徒のアンケートには「今まで人とかかわることを避けてきた私が、かるたを作る過程で、多くの人と話をすることができ、とてもうれしかった」と書いていた。防災教育が一つのきっかけとなり、小さな成功体験を積むことで、社会に出ていく上での大きな枠での「教育」ができたことは、非常に大きな成果であると考えている。</p>
<p><b>全体の反省・ 感想・課題</b></p>	<p>定例の避難訓練ではなく、より実践に即した「予告なしの避難訓練」を行うことは、教職員に大きな負担をかけると考えていた。しかし、実際行ってみた結果、負担と感ずるよりも、むしろその緊張感を楽しんでいる教職員のほうが多かったように感じる。事後アンケートも不平・不満の声はもちろんあったが、それ以上に防災知識をより獲得していきたいという意欲的な意見が多くみられた。</p> <p>この訓練をきっかけとして、その後の防災関連の行事をより実践的で楽しめる内容にできるよう、多くの教員が主体的に関わり、工夫し、実践してくれたことをうれしく感じる。</p> <p>また、その防災行事を楽しむ教員の姿が、生徒に伝わり、防災委員をはじめ、多くの生徒たちが主体的に防災教育にかかわるきっかけとなったことは感慨深い。</p>
<p><b>今後の 継続予定</b></p>	<p>防災担当者は異動等でいなくなる可能性はあるが、伝統となった行事が消えることはない。2年間のチャレンジプランを通じて、より実践的な防災行事が本校の伝統行事の一つになりつつある。</p> <p>これまでの活動に、より工夫を加えながら、今後も続けていくことで、主体的に取り組む教職員を増やすことだけに留まらず、より多くの生徒を積極的に防災行事に参加させる仕組み作りを継続的に行っていきたい。</p> <p>まだまだ時間がかかるかもしれないが、本校の生徒たちが主体となり、防災行事を行うことのできる防災教育の先進校となれるよう今後もより一層の努力を続けていきたい。</p>

## 7. 自由記述欄

### 【防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等】

#### ● 「指示カード」(災害時アクションカード)

平成26年度、地震への備えとして病院等で取り入れられている災害時アクションカードを本校の実状に即した形にアレンジし、それを活用しながら防災訓練を実施している。より実用的なものとなるように今後も適宜内容を見直し、本校独自の「指示カード」に基づく避難誘導體制の確立を図っていきたいと考えている。

#### <活用要領>

- ・指示責任者の優先順位は、「教頭 → 総務主任 → 教務主任 → 生徒指導主事」とする。
- ・指示責任者は職員室在室の教職員数を素早く把握し、以下の表1、表2、表3に従って役割を指示する。

#### <記載内容の工夫>

- ・各係の活動内容と校内地図を明記
- ・各班と見回り階数の数字を対応
- ・班表示に全6班を表す六芒星を使用
- ・担架設置場所を赤シールで表示
- ・避難経路を矢印で表示
- ・一枚ずつラミネートで加工



表1. 2係6班の担当表

係	班	担当
安全係	1班	1階+食堂
	2班	2階+北館
	3班	3階+体育館
	4班	4階
	5班	5階+E V内
応急処置係	6班	応急手当

表2. 指示カード人数割り振り表

12人以上	安全係	5班×2人=10人
	応急処置係	1班×2人=2人
残りは速やかに避難するよう指示		
11人	安全係	4班×2人=8人
	応急処置係	1班×2人=2人
残り1人は速やかに避難するよう指示		
10人	安全係	4班×2人=8人
	応急処置係	1班×2人=2人

表3. 安全係・班の組み合わせ表

4班の場合:	5+4	3	2	1
3班の場合:	5+4	3	2+1	
2班の場合:	5+4	3+2+1		
1班の場合:	5+4+3+2+1			

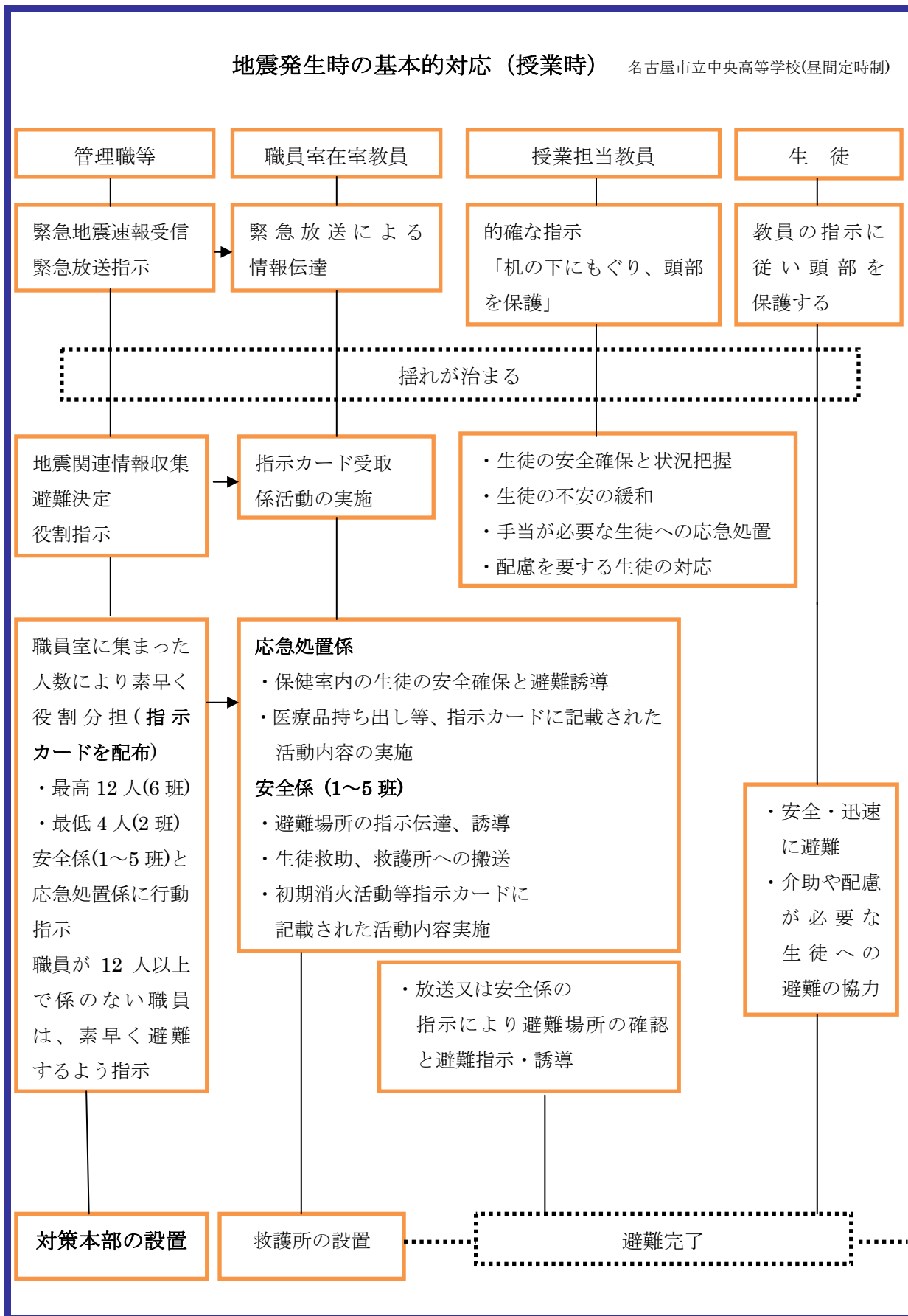
4人	安全係	1班×2人=2人
	応急処置係	1班×2人=2人
3人以下	<ul style="list-style-type: none"> <li>・応急処置係の持ち出し物品を持ち、避難誘導の声掛けを主な役割とする。</li> <li>・教職員の人員が確保でき次第、各階の安否確認を行う。</li> </ul>	

(自由記述: 1/3)



### 地震発生時の基本的対応（授業時）

名古屋市立中央高等学校(昼間定時制)



(自由記述: 2/3)

Large empty rectangular box for free text entry.

(自由記述: 3/3)